

υἱὸς Δαυίδ

フエイオス・ダーウィード

知っておきたいキリスト教のことば (131)

ダビデの子 だびでのこ

聖書には、イエス様のことを指すキリスト論的称号がいくつかあります。「神の子」、「人の子」や「ダビデの子」というのがそうです。

ダビデとはイスラエル王国の二代目の王で、彼のことは旧約聖書サムエル記上 16 章からサムエル記下に、また歴代誌上 10 章から 29 章にわたって書かれています。彼はイスラエルの理想の王だと考えられてきました。そしてユダヤの人々は、ダビデの家系からメシアが出るのだと信じていました。

サムエル記下 7 章 16 節には、「あなたの家、あなたの王国は、あなたの行く手にとこしえに続き、あなたの王座はとこしえに堅く据えられる」と書かれています。これは預言者ナタンを通して、神さまがダビデに対して伝えた言葉です。この言葉をもとに、ユダヤ教ではダビデの末裔であるメシアが、イスラエルの人々をローマの支配などから解放してくれるという希望を持っていました。

新約聖書の中では、イエス様が自らを「ダビデの子」と名乗ることも、弟子たちから「ダビデの子」と呼ばれることもありません。系図の冒頭に、「アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図。(マタイ 1:1)」と書かれているのと、周りの人から「ダビデの子」と呼ばれているだけです。

系図に書いてあるのは、マタイ福音書が主にユダヤ人に対して書かれており、イエス様がダビデの子孫であることを強調し、預言が成就したことを伝える必要があったためなのだと思います。

そしてイエス様ご自身が「ダビデの子」と名乗らなかったのは、その呼び方に民族主義や政治的な色合いが強く見られたためではないかと思います。イエス様はダビデ王国の復興のためではなく、全人類を救うために来られたということなのです。

次回は「賜物」です。楽しみに。



「ダビデ像」

ニコラス・コルディエ作
(サンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂)

彼は、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫んだ。

(ルカによる福音書 18 章 38 節)

